



発行日
10.08.31
第 328 号
会員 156 名
武蔵台剣友会
渉外・広報部



錬成大会（武道館）特集号

武道館特集号です。全国から集まってくる強豪に、週四日といつ例年になく厳しい稽古を成し遂げて錬成大会（武道館）に立ち向かっていった選手たちと父母会、そして指導をして下さった先生方の声の特集してありますので、どうぞお読みください。遅れましたことお詫び申し上げます。



全日本少年少女武道（剣道）錬成大会結果

対 修礼館（新潟）

基本

先鋒	藤田	3	0	金子
次鋒	高山	3	0	川崎
中堅	久我	1	2	白井
副将	阿部	0	3	米山
大将	皆川	3	0	真鍋
補欠				日高

一本勝負

先鋒	藤田	×	金子
次鋒	高山	引き分け	川崎
中堅	久我	引き分け	白井
副将	阿部	×	米山
大将	皆川	×	真鍋
補欠			日高

稽古観戦記 合言葉は「ぜったい勝つ」

水曜練習担当 米山 秋文

「ぜったい勝つ」を合言葉に、全日本剣道錬成大会の練習が5月から始まりました。7月までの3ヶ月間、通常の練習と合わせると倍に当たる、週4日の練習です。最初はどのような事かと心配していましたが、けがもなく、暑さにも負けずに選手たちは本当によく頑張りました。

6月からは練習会場が日高アリーナに変わり、周りで卓球や新体操をやっている中での練習です。最初はザワザワした雰囲気戸惑っていましたが、そのうち集中して練習に打ち込めるようになっていきました。

練習は、基本練習を中心に「抜け」や「残心」、「間合い」など、その日のテーマを決め練習の中でクリアできる事に重点を置いて行いました。

ところで、選手の様子はというと、5月の時点では、合言葉とは裏腹に気持ちもできておらず、「本当にこれで武道館の舞台に立てるのだろうか？」という感じでしたが、練習を重ねることに上達がはつきり分かるようになり、気持ちも入って何とかさまになったようです。特に、一番年下の日高は剣道の経験と筋力の関係で、思うように体が動

かせないのが悔しかったのでしよう、面の中で「こんちくしょう」と歯を食いしばり、声をからして打込んできたのが印象的でした。

さて、本番は相手が新潟の道場という、いやな雰囲気の、始まりました。基本試合は2対2の大将戦まで持ち込み、大将の善戦むなく敗れてしまい、一本試合も負けてしまいました。選手たちは全員「ぜったい勝つ」を感じさせる良い試合を見せてくれました。実は、練習の中では「は」ずかしい試合だけはない」と約束をしていました。「は」ずかしい試合」とは気持ちの入っていない試合のことです。選手たちは約束をしっかり守ってくれました。

練習は暑く、疲れはてて、ほんとうにつらかったと思います。でも、そんな中でしか分からないことや、つかめなことがあります。試合は残念な結果に終わってしまいましたが、この3ヶ月の練習で選手は皆、間違いなく成長したし、大切なものをつかんでくれたと思っています。ぜひ、これから先に活かしてください。選手の皆さん、また武道館稽古を支えて下さった方々、ほんとうにお疲れ様でした。そして、ありがとうございました。

平日の稽古は仕事の関係もあり、何かと大変だったと思います。有難うございました。



発行日
10.08.31
第 328 号
会員 156 名
武蔵台剣友会
渉外・広報部



錬成大会（武道館）特集号

武道館までの道

眞鍋 和久

スポーツとしての剣道は個人競技だと思っています。対戦相手はいるのですが戦っているのは自分自身だと思っています。普段の稽古や大会に向けた稽古でどれだけ頑張ったか？気持ちには集中できたか？大会試合はその事が問われる最後の仕上げではないでしょうか。選手の間にはよくガンバリました。週4回の稽古はさすがにキツイと見えて、5月後半ぐらいから動きが鈍くなった様に感じました。

が、5/22戸田大会後から少し変化がありました。最初に気が付いたのは日高諒久君。初陣の試合で対戦相手に2度もフツ飛ばされた彼の動きが、心なしか機敏になった様な気がしました。（この試合で『諒久君が竹刀を離さなかった事』は1話完結モノです）

そして6月に入った頃からみんなの竹刀の音が違ってきました。ピシッパシッだったのがピシッパシッと聞こえるのです。見ると、胴などは、今まで撫でていた感じがしっかりと打ち込んでいる。

6月後半頃からはみんなに個性が出て来た様に感じました。特に白井瑛美さんの切り返しは綺麗と言っより華麗で、見ていて気持ちが良い。

武道館観戦記

日高 久史

長男の諒久が補欠選手として選ばれて、親としての初の武道館参加をさせてもらいました。

稽古は、五月から週四日、稽古場所も、毛呂山、高麗小、日高アリーナという環境の中、子供達は皆よく頑張りました。

武道館前日は、剣友会恒例の順番取りの為に泊まり込みをしました。真鍋さんに早く並んでもらい九番目でした。前日は、武道館でビジュアル系のライブ。武道とは正反対の若い子、順番待ちのおじさん達、ライブ後気分が悪くなった若い子に救急車到着、深夜からの若い子の延々とつづくサックス演奏練習等、混沌とした雰囲気の中、真鍋さんと様々な会話が出来、楽しい夜を過ごすことが出来ました。サックス演奏をBGMとしていがいにもかなり睡眠がとれた状態で当日をむかえました。

入場行進、開会式を見ていて感じたのは、昨今の子供達の落ち着がないと言われる中、全国から参加した子供達の姿勢、行儀、元気の良さです。剣道で培った精神、武道館に参加する事の意義を感じました。

試合の結果は、残念でしたが、補欠の諒久を含めて、子供達は素晴らしい経験が出来たと思います。



眞鍋会長、日高さん、前日からの場所取りお疲れさまでした。恒例とはいえ大変ですよ

当日の夜、公民館にて慰労会があり、一大イベントが無事に終了しました。大変でしたが、夢のような一日になりました。最後になりましたが、監督の原本先生、川崎先生、米山先生はじめ諸先生方のご指導、父母会の眞鍋会長はじめ諸先生、諸先輩方が築いてきた伝統によって、素晴らしい経験を子供達に与える事が出来ました。ありがとうございます。

来年も、私に出来る事を頑張りたいと思います。

私事ですが、眞鍋拓矢はというと、膝の故障で5月より見学中でした。親としては少々焦りが出ます。7月初旬より復帰しましたが、特にこの2ヶ月間のブランクは大きい様です。

7月からは暑さの試験が加わりました。毛呂山サブアリーナでは風通しが悪い上に異様に暑く、ただいりだけでも大変でした。しかしその効果として、7/19飯能日高剣道祭会場の暑さにはみんな平気な様でした。「毛呂山サブARに比べれば」と言って、変な気負いもなく試合を楽しんでいる様でした。拓矢も何とか参戦できるまでに回復しました。

「剣道は個人競技」であるのに何故こうも連帯感があるのでしょうか？選手のみではなく、選手と先生、そして選手と親、親同士。「剣道は個人競技」なのは表面的な事で、実は「剣道は団体競技なのだ」と言うのが4ヶ月間で得た私なりの結論です。（あるいはこの4ヶ月間により、私の中で個人競技から団体競技に変化したのかもしれない。）

選手みんな、本当によくガンバリました。ご指導／ご協力頂いた先生方、ありがとうございます。父母の皆さん、ご苦労様でした。



発行日
10.08.31
第 328 号
会員 156 名
武蔵台剣友会
渉外・広報部



錬成大会(武道館)特集号

「武道館」

先鋒 金子 歩未

わたしは、昨年試合を見にいきました。でも、今回初めて試合に出ました。

入場行進まではきんちょうはしていなかったけれど、大勢の人の前に立ってみて、きゆうにドキドキしてきました。

わたしは、先ぼうですぐに試合です。基本の結果では3本相手に取られてしまいました。その時、くやしかったです。

でも、頑張つて今まで、やってきたので出しきれたと思います。四十秒以内でできたのでそれはうれしかったです。たりなかったのは、声だと思いました。

来年は旗が3本あがるように、大きな声を出してがんばりたいです。

「武道館の大会を終えて」

次鋒 川崎 和司

四月から武道館のけい古が始まりました。かんとくは、原本先生でした。けい古した日は、水曜、木曜、土曜、日曜の週四回と多い日数でたいへんでした。がみんなといっしょにがんばりました。日高アリナやもろ山の体育館、高ま小の体育館を借りてけい古をしました。そして7月24日武道館の大会の日がきました。相手は、新潟県の修礼館でした。相手は、強そうでした。試合が始まる前は、すぐきんちょうしましたが試合が始まるときんちょうは、とけました。ぼくは次鋒でした。いっしょうけんめい大きな声を出してがんばりましたがはたは相手に3本上がってしまいました。次は、1分1本勝負でした。1本勝ち、ぜったい勝ちたかったけれど引き分けでした。

今年は、負けてしまったけれど来年は、旗を3本上げて1本勝では、勝ちたいです。



週4回の稽古はとても辛かったと思います。おまけにあちこちと稽古場が移動して大変だったよね。でも、そういう中での成果が「試合が始まるときんちょうは、とけました」ということばになっているのですね。がんばっていこう。



先鋒はとても緊張したと思います。立ってみないとわからないよね。この日まで苦しくてもがんばってきたことが「出しきれた」ということばになっているのですね。課題は「声」だ。がんばっていこう。



去年のくやしさが、今年の目標となって辛い稽古^{つら}をやり終えることができたのですね。「本番での練習の成果」や「大きな声をだして」と言ったことばに表れているのだと思います。来年は後輩^{こうはい}に教える番だ。がんばって。



武道館稽古^{けいこ}が始まってみると、それまでの稽古と違いましたか。基本稽古^{しきこ}の地道な積み重ねが「つかれない」からだを作ってくれたのですね。来年がたのしみだね。がんばって。

おとし
剣友会
たより

発行日
10.08.31
第 328 号
会員 156 名
武蔵台剣友会
渉外・広報部



錬成大会（武道館）特集号

「武道館の試合に参加して」

中堅 白井 瑛美

わたしは、初めて武道館の練習に行ったとき、どんな練習をするか、どきどきしていました。武道館の練習は、武蔵台小の体育館が工事していたので、日高アリーナに行ったり、他の所に行ったので大変でした。はじめのころは、基本げいこでもつつかれてしまいました。でも、何度もやっているうちに、あまりつかれないようになりました。

そして、初めて武道館に行った時、すごく広いのでびっくりしました。あと、日本中から大ぜいの選手たちが来ていました。

いよいよ試合が始まり、わたしは中堅でした。相手は、新潟県の修礼館という所でした。わたしは、基本げいこでは、旗が2本上がったけど、試合では、引き分けでした。

来年の武道館では、旗を三本とりたいです。あと、試合でも、一本取りたいです。

「武道館に行った感想」

副将 米山 葉月

私は、去年相手にはたが3本上がったので、すごくくやしかったけど、今年は基本で3本上がってよかったです。

水、木、土、日とつらい練習もあったけど、本番で練習の成果を出してがんばりました。去年は、声あまり出でなくて旗が3本上がらなかつたけど、今年は大きな声を出して、先生からの注意に気をつけながらやりました。

旗が3本上がった本当によかったです。

白井さんは初めて武道館に行くのに、旗が2本上がったすごいと思いました。ほかの人はあまりいい結果が出なかつたけれど、私にとつては最後の武道館だったから、みんなとがんばれてとてもうれしかったです。

来年武道館に行く人を応援したいと思います。



発行日
10.08.31
第 328 号
会員 156 名
武蔵台剣友会
渉外・広報部



錬成大会（武道館）特集号

「日本武道館の大会」 大將 真鍋 卓矢

ぼくは、左ひざのけがでほかの人より、練習に出るのがおくれてしまっていました。少し動ける時は、素振りをやっていました。やっといつものけい古ができる様になっても体力が落ちていたので、すぐつかえたり、ほかの人より少しおとっていました。何とかついていけるようになってからも少し心配でした。当日、日本武道館にいった時は人の多さや武道館の大きさにびっくりしました。去年はほ欠だったので、細い所はあまり気が付かなかったのですが、去年、実際に出場する時は、去年見えなかった所がたくさんありました。試合では、惜しくも負けてしまいました。試合場に入った時は、とてもきん張りました。今年最後の、武道館だったので少しくが残りました。来年は応えんにいきたいです。

「武道館に行つて」

補欠 日高 諒久

僕は、武道館に補欠として行きました。けいこは、武道館けいこが入って週四回でも大変でした。武道館けいこは原本先生、川崎先生、米山先生、が中心で教えてくれました。武道館は八角形でした。思った以上にほかのチームや応援してきた人が多かったです。入場行進は選手といっしょに歩いてうれしかったです。武道館に行つて、武道館はすごく大きな大会で、だからあんなにけいこをしてきたんだと思います。試合はあとすこしの所で負けてしまいました。でも、みんな自分のいい所を出せてよかったです。次のけいこからは、メンバーにえらばれるように練習します。



武道館が「八角形」だとよく気がつきましたね。「みんな自分のいい所を出せてよかった」ということが心に残りますね。ここによく先生方が話す、剣道でいう「礼」の意味がありそうですよ。来年は武道館に立とう。がんばって。



怪我が治るまでよく見とり稽古をしていましたね。指導の先生の言うことを聞きもらすまいとしていた姿勢が「去年見えなかった所が」見えたということだね。来年は後輩の指導だ。がんばって。



「頑張った選手達へ」

川崎 克子

錬成大会、おつかれさまでした。

今年は小学校の体育館が使用できなかったの、最初はあまり稽古ができないと思われましたが、みんなのお父さん、お母さん方が一生懸命に稽古場所を確保して下さり、週四回びっしりと予定が入りましたね。

しかし、今日はアリーナ、明日は毛呂山と、毎回違う場所での稽古はかなり大変でしたが、みんな最後まで頑張りました。でも、みんなが頑張れたのは、毎回遠くの体育館への送り迎えや稽古中のサポートをして下さったお父さんお母さん、そして忙しい中みな指導をして下さった先生方のおかげがあってこそ、ということをお忘れしないで下さいね。

『武道館大会を明日につなげるために』

監督 原本 十一郎

一瞬の静寂せいじやくの中が、一斉の照明に照らされて「ワァー……」というどよめきの中で開会を促すアナウンス。あの感動は、剣道人として日本武道館に立てた至福しふくの興奮を感じます。

私が全日本少年剣道錬成大会(武道館大会)を、監督として担当させていただいたのは今回が三回目になります。今回の大会は、これまでの武道館大会との大きな違いが二点ありました。

まず、武蔵台小学校の改修事に伴い、体育館が使用できなかったこと。その為に、毛呂山の総合体育館や日高アリーナ、高麗小学校等を転々とした稽古になったことです。武蔵台小学校の体育館での稽古であれば、身近にあるため出掛けるにも余裕があります。毛呂山の総合体育館へは二〇分強の道のりとなり、早めの準備など苦労しました。

しかし、父母会の会場予約・手配のお陰で滞りなく稽古ができたことは、大変感謝しています。ありがとございました。

もう一つの違いは、補欠も含めて三学年に亘わたったチーム編成となったことです。前回も前々回の担当時も、主力選手は六年生で補欠が五年生のチームを構成することができ、指導のレベルでも均一化が図られました。稽古内容の検討も容易だったことを覚えています。試合の

当日の試合はどうでしたか。負けてしまった悔しい思いをした人が多かったのでしょうか。でも大切なのは、試合に勝つこと以上に、その試合から自分なりに何かを学ぶ、ということです。自分の試合を振り返って、何が足りなかったのか、ということを考えてみて下さい。そして足りない所を上達させるために目標をもってこれからの稽古に向かうことができれば、来年はもっといい試合、もっといい結果が出せるはずです。

父母会の方へ

今年は例年にない週四回という武道館の稽古日程、その上、武蔵台小の体育館が使用できないこともあり、稽古場所の確保で大変だったと思います。有難うございました。今後も「武蔵台剣友会」へのご支援をよろしくお願い申し上げます。

結果は兎も角としても、チーム内で互いに競わせることができれば、勝負に対する子供たちの意識も違ってくるものです。剣友会会員の減少に伴い、今後ますます厳しい指導環境が予想されます。これからは少ないメンバーを、如何に盛り上げチーム力を発揮させるかが課題だと考えています。ただ、今年のチーム構成は来年につながるものがあると思います。五年生川崎和司、金子歩未、白井瑛美、四年生の日高諒久が武道館大会を経験したことにより、来年の大会に向けての目標意識を持つことができるし、また、意識を高めて稽古に励むことを期待します。それぞれの課題としては、川崎和司：切り返しや面打ちの時に打突点を最後まで伸ばすこと。金子歩未：丹田から気声を発して、対戦相手を威圧いかづつするくらいの堂々の構えを望みます。白井瑛美：頭上高く振りあげた面打ちができること。日高諒久：正しい刀筋の打突を心がけること。これらの課題はありますが、抜き銅や小手、面等の連続技の速さ、喉を突く姿勢からの素早い面打ちなど、素晴らしい技も持ち合わせています。それぞれに長所を活かしながら、少しでも早く苦手を克服できるよう頑張ってもらいたい。もつ、来年の武道館大会に向けての戦いは始まっているのです。これから、稽古を休まず、他人以上の努力をすれば、必ずと結果は伴うと思います。

今夏は、連日の猛暑の中での稽古でしたが、みんなよく頑張ったと思います。また、米山先生を始めとした先生方のご支援により、悔いの残らない大会を終えられたことを感謝いたします。